

第 19 回介護福祉士 国家試験 問題・解説（やまだ塾）

＝レクリエーション活動援助法＜事例②＞＝（問題 38～問題 40）

【レクリエーション活動援助法】

（レクリエーション活動援助法・事例問題）

次の事例は、介護老人福祉施設におけるレクリエーション活動援助の場面である。

事例を読んで、問題38から問題40までについて答えなさい。

（事例）

A さん（80歳，女性，元教師）は2年前に脳梗塞を起こしたことにより，認知症と右片麻痺がみられ，利き手だった右手は動かないが，杖をついての歩行は可能である。認知症の程度や理解力の低下が進んできたので，1か月前に介護老人福祉施設に入所した。A さんは，施設生活になかなかなじめず，また生活にも張りがなく，終日ベッド上での生活を送っている。俳句，菓子作り，散歩の趣味があるなどというアセスメントに基づき，レクリエーション担当の職員は，A さんが少しでも早く施設の生活に慣れ，QOL（生活の質）を高めるためにレクリエーションプログラムの立案を開始した。

問題38 A さんのレクリエーション活動援助の計画に関する次の記述のうち，正しいものに○，誤っているものに×をつけた場合，その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 趣味を生かして俳句を作ってもらえるように，多くの題材を提示する。
- B. 活動は1回ごとに時間や場所を変えるよう工夫する。
- C. 脳梗塞の再発防止などのため，安全な運動強度について医師に確認する。
- D. 昔の話をゆっくりしながら，過去の生活の記憶をたどってもらうことを試みる。

（組み合わせ）

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	×
3	×	○	○	○
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問題39 A さんに対する菓子作りのレクリエーション活動援助に関する次の記述のうち，適切なものに

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

○, 適切でないものに×をつけた場合, その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 補助具を用いて, 左手だけで道具が使えるように工夫した。
- B. 右手が動かないので, 菓子を作るより食べることをすすめた。
- C. まずは得意な菓子の中から簡単にできるものを一緒に選んで作った。
- D. 菓子作りの楽しさを思い出してもらうために, 作り方を教えてもらうという態度を織り交ぜつつ援助した。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	×	○	○
2	○	×	×	×
3	×	○	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問題40 Aさんの日常生活におけるレクリエーション活動援助に関する次の記述のうち, 適切なものに○, 適切でないものに×をつけた場合, その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A. 部屋を訪れる利用者を毎日変えるなど, 多くの人との交流ができる機会を増やした。
- B. びっくりさせて喜んでもらうために, これまで作った俳句を, Aさんに内緒で廊下に張り出した。
- C. 離床のため, 安全性の確認などの見守りを行いつつ, 施設内を散歩するように促した。
- D. 施設内のクラブ活動を見学するなど, 部屋の外に出るように促した。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	×	○	○
2	○	×	×	×
3	×	○	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○